

視察報告 先進地に学ぶ

視察日／7月5日～7日

町政の主要課題解決に向け、議員全員での視察研修を行いました

スマートウエルネスシティ ～新潟県見附市～

スマートウエルネスシティとは、ウエルネス(健康)11個々が健康かつ生きがいをもち、安心安全で豊かな生活を営む(こと)を、まちづくり政策の核に置く自治体の取り組みで、現在、見附市のほか40市町で進められている。

見附市では、健康づくりの4本柱として、食生活(日本型食生活のすすめ)、いきがい(地域活動の推進)、



ふるさとスマホ ～群馬県下仁田町～

検診(健康の駅事業)、運動(運動教室の推進)の取り組みが行われている。

健康や運動に関心の薄い市民に積極的に働きかけた結果、医療費の削減に一定の効果が上がっている。

下仁田町は、防災無線などの代わりに、スマートフォン(スマホ)を町民に配布する事業に試験的に取り組んでいる。

緊急情報の発信のほか、高齢者の安否確認、健康維持のための歩数計としても活用でき、利用者を対象にしたウォーキングイベントなども行われている。

便利な面も多いが、スマホを使いこなせない高齢者への対応に課題も多い。



日本遺産 鎌倉 ～神奈川県鎌倉市～

年間2200万人もの観光客が訪れる鎌倉。江戸時代から江の島参拝の帰途に寄る旅程で発展し、鎌倉大仏や鶴岡八幡宮が観光の目玉になっている。

鎌倉幕府の史跡遺産は意外と少ないが、ボランティアガイドさんの巧みな説明を受け、短時間だったが鎌倉時代の様子に思いをはせることができた。

日本遺産 大山詣り ～おおよまい 神奈川県伊勢原市～

大山詣りは、かつて鳶(とび)などの職人たちが巨大な木太刀を担いで大山寺に奉納するなど、江戸庶民にとって身近な小旅行だった。

江戸の人口が100万人のころ、年間20万人の参拝者が大山寺に訪れており、今もおおよま、関東では、「大山」は「おおよま」として親しまれている。

本町では、近年、「大山をだいせん



と読ませる」PR事業に取り組んでいるが、同時に、同名の縁で大山との交流も行っている。

今回、本町の「牛馬市」と伊勢原市の「大山詣り」が、同時に日本遺産に認定されたこともまた一つの縁であり、今後の交流・連携も見据えつつ、現状の取り組みを伺った。

まとめ

今年、「地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」が日本遺産に認定されるなど、平成30年の大山開山1300年事業を前に、観光振興の面ではうれしいニュースが続いている。

今回の視察では、そうした日本遺産を生かした取り組みや、昨年スタートした本町の「まったなし健康づくり」事業に生かせる事例を学ぶことを主眼にした。

議員個々の認識をさらに深め、今後の町政に生かしていきたい。



本町でも、ボランティアガイドの養成は一層必要であることを実感した。

議会活性化

～神奈川県大磯町～

平成26年に、政策提言型では初となる「大磯町省エネルギー及び再生可能エネルギー利用の推進に関する条例」を提案可決した大磯町。その



功績により翌年、全国町村議会議長会から特別表彰を受けている。

また、議員定数14人のうち女性議員が半数の7人という女性の参画が進んだ議会でもある。

条例制定にいたる取り組みの経緯のほか、議会基本条例を始めとする議会改革、議会による事務事業評価の取り組みなど、多岐にわたる説明を受け、幅広く意見交換を行った。